

明治23年に誕生した一宮町。 昭和30年にいまの一宮町が 確定し、新しい時代へと。

町としての成り立ち

明治という新しい時代の幕が開いて以来、大正、昭和を経て平成まで、わが国は大きな変化、躍進の道をたどってきました。それは、一宮についてもあてはまらず。

明治4年、廃藩置県が実施されると、一宮は藩から県に変わり、その後すぐに木更津県に統合。明治6年、木更津県と印旛県が統合して千葉県ができたときには、一宮本郷村・新茂村・東浪見村・網田村の4村が近隣14カ村とともに一大行政区を形成しました。これが基礎となつて、明治14年、一宮本郷村と新茂村の合併により、一宮本郷村に。明治23年には一宮町と改称し、ここに一宮町が誕生しました。

その後は、昭和28年に一宮町と東浪見村が合併。29年には一松村船頭給、30年には一松村新地と八積村宮原が分村編入。こうして、何回かの変遷を経て、現在の一宮となりました。

昭和40年代ごろからは、町は各産業をはじめ、教育、福祉などの充実に努め、施設建設や各種活動を実施するとともに、文化財や祭りといった伝統的なものを守る方針を打ち出しました。

早くから農業振興に着手

明治政府による殖産興業の方針のもとに、一宮では産業振興に明治時代早々から取り組みました。なかでも農業については、明治41年、全国に先がけて耕地整理を実施したほか、土地改良や灌漑設備工事を行うなど、かなり意欲的な事業だったといえるでしょう。旧藩主で一宮町長となった加納久宜が農業方面に博識だったこともあって、稲作をはじめ、生鮮野菜、果樹、養鶏、養豚など、多岐にわたる分野の指導、研究、品評会なども行われました。

こうして生産基盤ができたことで、一宮の農家はこの土地、その時代に合った方法で近代的な農業を営むようになりま



玉前神社選田のお田植



旧一宮信用組合倉庫



一宮本郷区裁判所



旧一宮警察署



醤油醸造元の店先



豊漁 地曳網



馬耕



酒醸家の人々

【上総とんび】 300年の歴史が空を舞う

町の無形民俗文化財に指定され、県指定伝統的工芸品となっている「上総とんび」は、一宮に江戸時代から伝わる縁起物の装飾凧です。漁師が豊漁のお礼詣でのときに装う万祝(まいわい)という衣裳に倣った形と、色鮮やかで独特な絵柄装飾の美しさが目を引きま



一宮町の歴史

- 1890年(明治23年) 一宮本郷村、新茂村と合併し、一宮町となる。
- 1891年(明治24年) 一宮区裁判所新設開庁
- 1892年(明治25年) 東浪見小学校新校舎落成
- 1893年(明治26年) 関取沢、梨苗を植え増殖を図る。東上総梨の始まり
- 1894年(明治27年) 一宮町消防組設立/日清戦争勃発(28年)
- 1895年(明治28年) 一宮商業銀行設立
- 1896年(明治29年) 一宮美業倶楽部誕生
- 1897年(明治30年) 大網、一宮間鉄道開通、一宮銀行一宮支店の前身
- 1898年(明治31年) 一宮商業銀行設立
- 1899年(明治32年) 一宮町農会、団体として認められる
- 1901年(明治34年) 網田小、東浪見小に合併
- 1904年(明治37年) 日露戦争勃発(38年)
- 1906年(明治39年) 陸道建設工事起工(西部耕地整理)
- 1907年(明治40年) 一宮町信用組合創立(農協の前身)
- 1908年(明治41年) 一宮町青年会発会/全国に先がけ耕地整理始まる。一宮駅、海岸の間1.54町5反歩(大正3年)
- 1909年(明治42年) 電話交換業務開設/杉山式馬耕始まる。
- 1910年(明治43年) 一宮婦人会発会(会長加納子爵夫人鑑子(昭和16年))
- 1911年(明治44年) この頃一宮海水浴場できる
- 1912年(明治45年) 加納久宜、町長に就任(大正5年) 生活改善論(加納久宜)
- 1913年(大正2年) 一宮女学校設立(昭和8年)
- 1914年(大正3年) 一宮に初めて電灯が光る/青年会商業部を海岸に開設
- 1915年(大正4年) 養蚕組合結成(一宮)
- 1916年(大正5年) 隔離病舎新築/養蚕組合結成(東浪見)/東浪見村青年会発会/豪雨のため一宮川洪水、宮原地区に被害
- 1917年(大正6年) 一宮公会堂開設
- 1918年(大正7年) 米価高騰
- 1919年(大正8年) 加納久宜、逝去/東浪見一宮漁業組合免許を受け
- 1921年(大正10年) 網明寺に消防用水池をつくる
- 1922年(大正11年) 一宮警察署に42尺の鉄骨製乗兼火の見櫓を設置
- 1923年(大正12年) ゴンドウの産の大群東浪見海岸へ/関東大震災、一宮では大きな被害はない
- 1925年(大正14年) 一宮実業学校創立
- 1927年(昭和2年) 一宮学園開設
- 1930年(昭和5年) 一宮川堤防決壊、宮原地区被害受け
- 1931年(昭和6年) 徳川大尉、所沢、一宮間長距離飛行に成功/冷害による大凶作/満州事変始まる
- 1932年(昭和7年) 大父の池池改修、ヒュム管理設(東部耕地整理組合)/一宮園芸組合結成
- 1933年(昭和8年) 軍奈利山池池工事着工(20年)
- 1935年(昭和10年) 一宮、東浪見国防婦人会結成(7年解散、大日本婦人会として発足、終戦により解散)
- 1936年(昭和11年) 一宮小学校新築
- 1937年(昭和12年) 日支事変始まる
- 1938年(昭和13年) 国民健康保険法成立実施
- 1940年(昭和15年) 親の谷池池新設工事起工(19年)
- 1941年(昭和16年) 一宮川湖止堰完成/太平洋戦争突入(20年)
- 1942年(昭和17年) 青少年団体、婦人会が大政翼賛会の傘下
- 1943年(昭和18年) 一宮町農業会設立/東浪見第2耕地整理組合設立/雨竜湖計画/一宮町森林組合設立
- 1944年(昭和19年) 西部丘陵に横穴陣地構築/風船爆弾、一宮基地(海岸)から上げる
- 1945年(昭和20年) 終戦、復員始まる
- 1946年(昭和21年) 自作農創設特別措置法公布/農地委員会の委員選出/宮町婦人会再度結成し、あづま会(東浪見地区婦人会)誕生
- 1947年(昭和22年) 公選町長の選挙で田中周当選/一宮中学校創立/農業共済組合発定/千葉地方検察庁一宮支部発定
- 1948年(昭和23年) 農業協同組合設立(一宮、東浪見)/衣料協同組合設立
- 1949年(昭和24年) 一宮町乳牛組合結成
- 1950年(昭和25年) 千葉県林業技術指導所運営開始
- 1951年(昭和26年) 農業委員会委員選挙/東浪見、一宮漁業協同組合(登記)/一宮保育所開設
- 1952年(昭和27年) 一宮町未亡人会発足
- 1953年(昭和28年) 東浪見村と一宮町が合併し、新たに一宮町を設立。町長に久我松太郎就任/梅樹及金鐘、国重要文化財に指定
- 1954年(昭和29年) 船頭給、長生村より分村編入/東浪見保育所新築竣工
- 1955年(昭和30年) 新地、宮原が長生村より分村編入/一宮町社会福祉協議会設立/国勢調査、人口11387人、世帯数2020世帯
- 1957年(昭和32年) 国民健康保険全町業務開始/軍奈利明王立像、県有形文化財に指定/軍奈利山植物群落、県指定天然記念物に指定/都市計画決定
- 1958年(昭和33年) 東浪見中学校と一宮中学校統合/玉前神社神楽、無形民俗文化財に指定
- 1959年(昭和34年) 有線放送施設竣工、業務開始/一宮中学校新築落成/県より社会福祉振興地区に指定/国民年金業務開始
- 1960年(昭和35年) 一宮町商工会法人に改組/原保育所新築竣工/国勢調査、人口10694人、世帯数2511世帯
- 1961年(昭和36年) 町営住宅(山)建設/原保育所開所
- 1962年(昭和37年) 福祉センター及び公民館竣工/簡易水道事業着手(39年)/町営住宅を権現前に建設
- 1963年(昭和38年) 国民宿舎一宮荘竣工/一宮保育所新築竣工、町営住宅を野中に建設(39年)/一宮町史編纂、39年発行/国土調査開始(53年)
- 1965年(昭和40年) 有線放送施設の自動化完成/町営住宅を川間台に建設(42年)/国勢調査、人口10196人、世帯数2651世帯/東浪見堤防、無形民俗文化財に指定